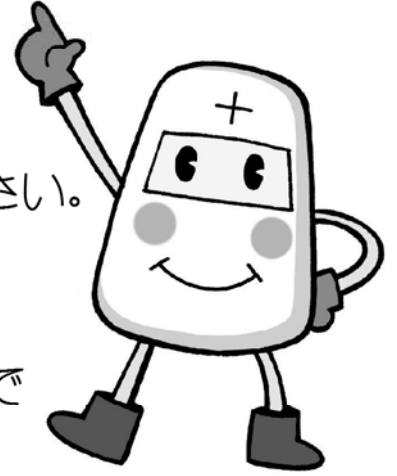


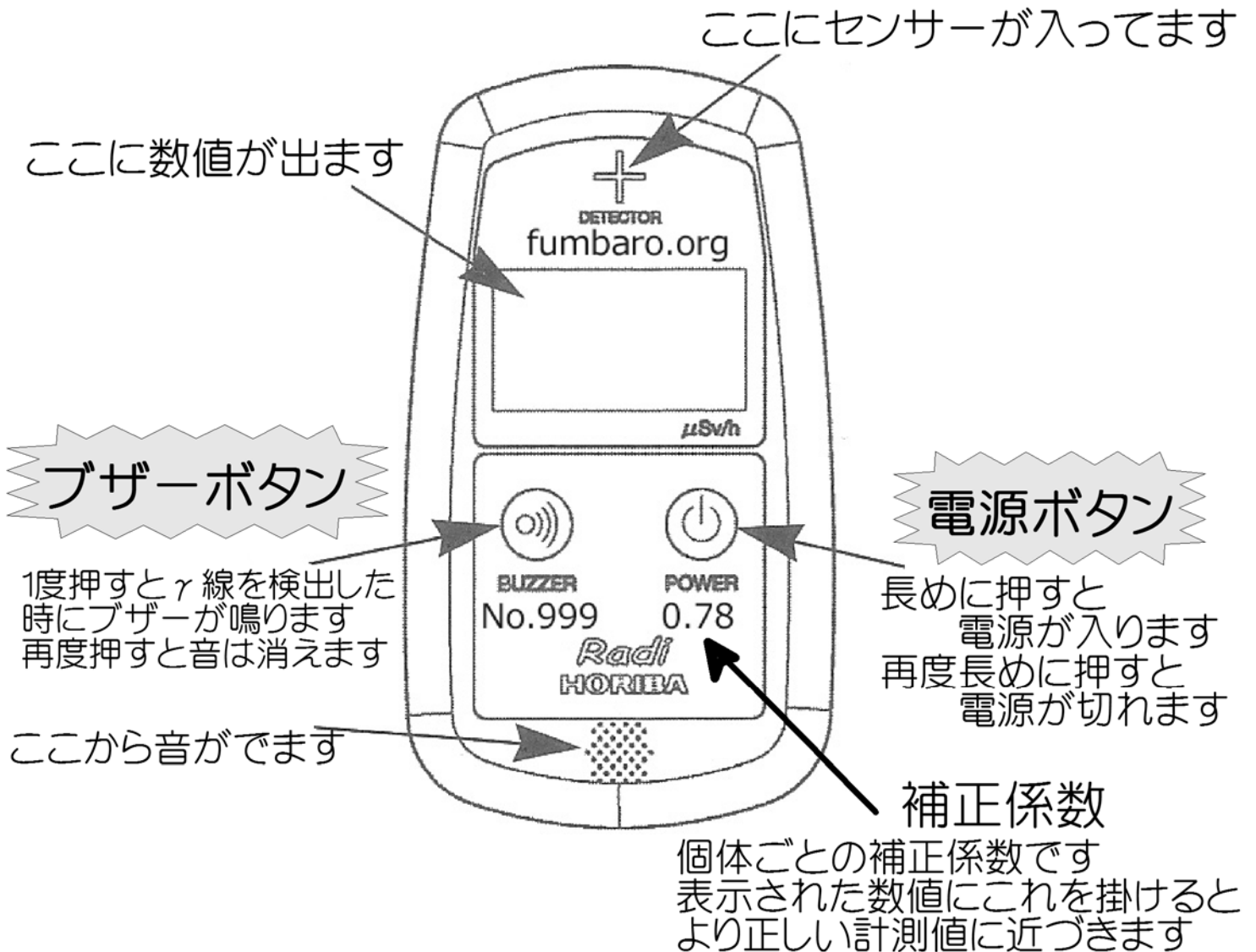
放射線量計 (Radi PA-1000) の使い方

ご注意ください!

1. 線量計はビニール袋に入っています。
この袋から出さないでお使い下さい。
2. ビニールを汚してしまうと正確に測れません。
地面に置く時は、紙を敷いて汚れないようにして下さい。
3. 線量計はデリケートな機器です。
落としたりぶつけたり、衝撃を与えないで下さい。
取り扱いは、慎重にお願いします。
4. 1台毎に補正係数を求めています。数値はあくまで
目安としてお使い下さい。



操作方法



表示部(液晶)の説明



カウントダウン中

電源を入れた直後はカウントが表示されます。35から数字が減ってゆき、0になると測定値を示します。測定値が表示されてから、更に30秒ほどお待ちください。

電源を入れて1分以上待ってから、数値を読むようにして下さい。

測定値表示中

ブザー音発生マーク

ブザー音の有無です。発生時にマークが表示され、ブザーを切っている時は何も表示されません。



電池残量

電池の残量です。もし電池が切れた時は、すぐに交換せずに担当者にご連絡ください。

測定値表示 放射線の測定値を表示します。単位は $\mu\text{Sv/h}$ です。マイクロシーベルト・パー・アワーと読みます。

放射線の種類

α 線(アルファ線)

重い放射性元素から放出される。紙1枚で防ぐ事が出来ます。

β 線(ベータ線)

アルミ板で遮蔽でき、人間の皮膚もほとんど通過しません。

α 線と β 線を出す物質は内部被曝で問題となり、体内に取り込まない注意が必要です。一方、外部被曝では体内の器官にほとんど影響を与えません。

γ 線(ガンマ線)

厚いコンクリートや厚い金属板等でないと防げません。

現在主に問題となっている放射性セシウムは γ 線を出すことから、 γ 線量を正確に測って汚染の程度を推定します。 γ 線の増えている場所には β 線や他のさまざまな種類の放射性物質もあると考え、必要に応じて外部被曝と内部被曝の両面で適切な対策を取ってください。

※Radi PA-1000では、 γ 線の測定が出来ます。公的機関が測定しているのも、主に γ 線です。

測定のポイント

基本的な測定方法

まず、1mの高さで測定しましょう。
この値が比較の基準となります。

※機器の場所や高さを動かさないようにして
1分以上待ち、数値を読みます。
1分ごとに数回数値を記録して、その平均値
を出すと、値のばらつきが小さくなります。

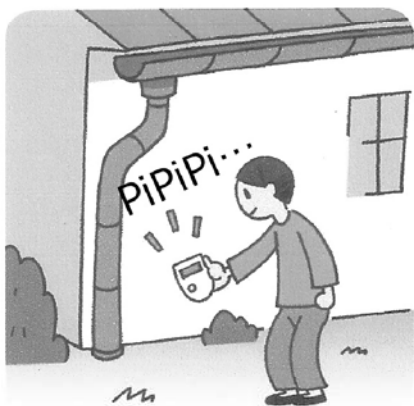
機器ごとの補正係数を掛けるのを忘れずに。

線量計を汚さないよう注意して、
低い場所で測るのも有効です。

この場合も、機器の場所や高さを動かさない
ようにして1分以上待ち、数値を読みます。
同じ場所の1mの高さの測定値と比較して、
2~3倍以上の数値が出る時は、放射性物質
が集まっている可能性があります。



放射性物質の集まっている場所の探し方



ブザーのスイッチをONにすると、 γ 線を検出した時に
「ピッ」という音を発するようになります。

放射線の量が多いところでは、「ピッ」となる間隔が
短くなります。

音を鳴らした状態で色々な場所へ測定器をかざす事
で、放射線量の多いところを探す事が出来ます。

音の間隔が短くなる場所を見つけたら、1分程度動か
さないようにして、値を確認しましょう。

貸出セット内容

- エコバッグ
- 保護ケース大
- 保護ケース小
- マニュアルファイル
- 1m棒
- Radi PA-1000(本体)

ご返却の際は、セット内容が揃っているか
ご確認ください。

万一紛失された場合は、担当者まで
ご連絡下さいませ。